

物流博物館 NEWS

活動報告特集号

号外 2000年12月1日発行

特集号発刊にあたって

お蔭様で、物流博物館も今年の8月で開館3年目を迎えることができました。開館以来、試行錯誤を繰り返しながら今日まで活動してきましたが、3年目の今年は色々な面で活動が軌道に乗り始めると同時に、博物館として新たな可能性を感じ取ることであった1年でもありました。また、昨年までに比べていろいろな変化もできました。さまざまな努力が実を結び始めた例もありました。

この特集号では、そんな物流博物館の今年1年を振り返ってご報告したいと思います。

特集

今年の物流博物館

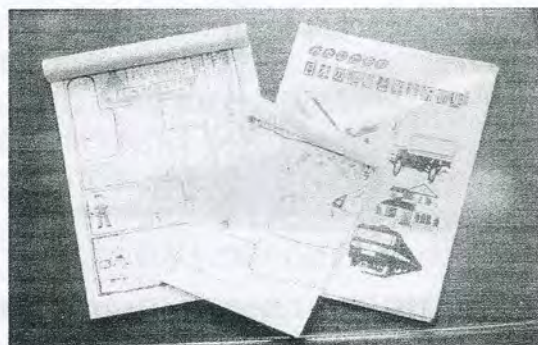
1. 入館者の変化

今年が一番の変化、それは入館者の変化です。物流博物館は、開館初年度は1年間に入館者数が約1万人ありました。通常、博物館の入館者数は開館初年度が最も多いもので、どの館でも次年度以降の数字は下降線をたどっていきます。当館もご多聞にもれず2年目は約8千人と入館者数が減少しました。しかし、今年は11月末の段階で、昨年度と比較して約1200人増(約3割増)と、昨年を上回る形で入館者数が推移しています。



見学の様子(「現代の物流」展示室にて)

これは、団体見学、とくに小学校の団体見学数が増加したためです。11月までの数字をみても、小学校の団体見学は25校・約1400名と、昨年の同月段階と比べて大幅な増加となっています。開館した頃は、「物流博物館」といっても学校の先生方の間では当然のことながら知名度はゼロに近い状態でした。そこで、近隣の区役所や各小学校を訪問して館のご案内をしたり、団体見学の参考資料として『見学のしおり』という小冊子を作って関東地方の各小学校に配布した他、この『物流博物館NEWS』でも小学校団体見学特集号を組んで首都圏の小学校の先生方にお配りするなど、いろいろ努力した成果が少しずつ実を結んできたようです。



見学後に子どもたちから送られてきた新聞

2. 他の団体見学も好調

小学校以外の団体見学数も順調に伸びています。中学・高校から専門学校、短大、大学、また各企業・団体の研修等、毎年来てくださる「お得意様」も増えています。団体見学は、当館に限らず博物館にとっては重要なお客さまです。それぞれ団体ごとにさまざまな要望をもって来館されるので、今後もきめこまかく対応していきたいと考えています。

また、個人入館者も、これまで多かった物流業界の関係者の方々に加え、今年は一般の方の来館が増えてきたという印象がありました。

・さまざまな事業が定着

また、昨年から始めたさまざまな事業が、今年は徐々に軌道に乗り始めました。特別展、映画上映会、夏休みの体験講座、そしてこれから社会に出る人のための物流に関する基礎的な講座「ロジスティクスセミナー」などなど。内容に工夫や変化を加えながら、いろいろな催しを実施しました。こうした催しは多くのマスコミに取り上げていただき、これまで物流博物館を知らなかった新たなお客さまが来館されるきっかけになったようです。詳しくは次ページの「今年の主な事業」でご紹介します。

時 期	事 業 名
1月～2月	小学生団体見学集中期 ロジスティクスセミナー開催期
3月末～5月	特別展示
7月～8月	夏休み体験講座開催期
7月～10月	映画上映会(月2回)開催期
10月～12月	小学生団体見学集中期

平成12年の主な行事日程

今年の主な事業

ここでは、当館で行われた今年の主な事業や活動について概略をご紹介します。

特別展 「写真と映像でたどる 物流の20世紀」



東海道線と平行して走る日通のトラック(1950年頃)

3月24日～5月21日まで、特別展を開催しました。この100年間の物流の姿を、約200点の館蔵写真と、計18本の物流に関する映画により紹介しました。上映した映画は日本通運や旧国鉄が昭和20年代～50年代にかけて制作した作品が中心で、会期中に物流映画を一挙上映するという試みでした。

・「物流の昔を聞く会」も開催

また、汐留貨物駅、荷役近代化、重量品輸送、美術品輸送に関する記録映画を上映した際には、当時の関係者の方々をお招きして、昔のお話を伺う座談会も催しました。

物流博物館映画上映会 「物流の視点—はこぶ姿から時代を見る」

7月～10月まで毎月2回映画会を開催しました。昭和20年代～50年代までのはこぶ姿を捉えた映像作品に、当時の時代状況を探ってみようという催しです。シリーズ化された映画会は、特別展の映画上映会を含めてこれで3度目になります。

当館の映画上映会は、朝日・読売をはじめとする新聞各紙や、『ぴあ』などのイベント情報誌、ミニコミ紙などで毎回紹介されており、近頃では常連さんも見うけられるようになってきました。こうした「地味な」映画の上映会にもかかわらず、ほとんど上映の機会がなかった作品を集めているせいか、毎回10数名から多いときは30名近いお客様が来てくださっています。中には、わざわざ関西から上京してくださる方や、かならず全作品を見てくださる方もおられます。作品を上映する前には、学芸員が作品解説を行い、参考資料などもお配りしています。なお、今回上映した作品は以下の通りです。

7月 「貨物輸送」(1951/協力 日本国有鉄道・日本通運)
「物のながれ」(1950頃/企画 日本通運)

8月 「68の車輪」(1965/企画 日本通運)

「オリンピックを運ぶ」(1964/企画 日本通運)

9月 「駿河丸」(1959/日本郵船)

「東京港」(1955/企画 東京都)

「はしけの生活」(1958/企画 東京都)

10月 「港湾荷役37年」(1982/企画 東京都)

「希望の船」(1981/企画 貯蓄増強中央委員会)

夏休み体験講座・特設コーナー

「美術品の梱包—入門編—」

「お宝を包んでみよう」

「ひっこし大作戦」

「段ボール工作教室」

「宿題相談コーナー」



体験講座「お宝を包んでみよう」

夏休みには、物流の仕事を紹介する4つの体験講座、「美術品の梱包—入門編—」(8月8日・23日)、「お宝を包んでみよう」(8月8日・23日)、「ひっこし大作戦」(8月25日)、「段ボール工作教室」(8月27日・29日)を開催しました。また、8月の土日には、宿題の自由研究の相談にのる「宿題相談コーナー」を設けました。

「美術品…」 「お宝…」とも、日本通運の美術品輸送の専門家に講師を依頼し、実際に陶器の壺などを特殊な和紙と綿ふとんを使って包んでみようという講座です。

「お宝…」は子ども向けの講座ですが、「美術品…」は博物館で働く学芸員を目指している学生さんなどを対象とした大人向けの講座です。いずれも人気の講座で、とくに大人向けの「美術品…」では定員オーバーでキャンセル待ちが出るほどでした。当日は、どちらの講座でも見本として包んで見せてくれた先生の手つきがあまりにも鮮やかで、「これなら簡単そう」と皆さん思ったようですが、見るのとやってみるのとでは大違い。みんなかなり悪戦苦闘していたようです。

「ひっこし…」では日通の引越事業部からひっこし博士がやってきて、引越専用車の荷台と運転席に乗せてく

れたり、ハンガーボックスなどの引越し新兵器を見せてもらったり、実際に茶碗や本を段ボール箱に詰めてみたり。解けやすいのに引っばっても解けないロープの結び方も教わって、楽しく引越しを「体験」していました。

「段ボール工作教室」では、物流にとってはおなじみの段ボールを使って運ぶ車を作ってみようということで、年齢別に宅配便の集配車やトレーラーなどに挑戦してもらいました。なかなか人気も上々で、近くの五反田児童センターの子どもたちも大勢参加してくれました。宅配便の集配車には色をつけてオリジナルの車に仕上げてもらいましたが、宅配便の会社もびっくり！なデザインが続々と登場していました。

「宿題相談コーナー」は、現代の物流に関するさまざまな情報や参考資料などを用意して、夏休みの自由研究の相談に乗るというコーナーです。ただし、このコーナーの人気はいま一つ。来年からはちょっとやり方を変えてみないといけないなどみんなで話し合っています。



工夫して作った宅配便の集配車(段ボール工作教室にて)

その他の活動

・『日通だより』『輸送展望』に連載記事

今年2月より12月まで、日本通運㈱の社内報『日通だより』に、「物流はじめて物語」と題するコラムを連載しました。これは、古代から現代に至る物流の歴史の中から興味深い事項を選んで、その「はじまり」についてわかりやすく紹介したものです。「荷札のはじめ」「トラック輸送のはじめ」「元祖宅配便—宅扱—」など、身近ではあってもあまり歴史が知られていないことをテーマに取り上げ、物流の歴史の豆知識を11ヶ月にわたって連載し、ご好評をいただきました。

また、日通総合研究所の『季刊輸送展望』にも、一昨年の秋号から今年の夏号まで、計8回にわたり、物流博物館の収蔵資料を紹介するグラビア記事の連載を行いました。

・博物館実習生の受け入れ

例年と同じく、今年も博物館学芸員の資格取得を目指す大学生を実習生として受け入れました。今年は男女計2名で、夏休みに実習を行い、体験学習の手伝いや資料整理、展示実習などに取り組んでもらいました。

・品川区のシルバー大学を当館で開講

品川区教育委員会が開催した高齢者向けの教養講座「シルバー大学」で、「くらしと道具」をテーマとした連続講座の内、「物流からくらしをみる」と題した3回分が、当館学芸員を講師

として当館で開催されました。運搬や荷役、包装などの物流の歴史を収蔵資料やスライド・記録映画などによって紹介し、くらしとのかかわりを考えた講座で、参加者の体験談なども飛び出す中、和気あいあいとした雰囲気の下で行われました。

小学校の団体見学

・小学校の団体見学の位置付け

当館を訪れる小学生の団体見学は、そのほとんどが小学5年生です。これは5年生の社会科で、交通・運輸という物流とかかわりの深い事項について学習するためです。

小学校の団体見学は当館の入館者の中心的存在です。見学数も開館初年度は13校650名、昨年度は25校1591名と順調に伸び、今年度は40校約2300名が見込まれています。

次世代を担う子どもたちに物流への理解を深めてもらう—これは当館の重要な設立目的のひとつでもあります。そこで今回は、そうした小学生の団体見学がどのように行われているのか、当館の取り組みをご紹介します。

・見学の様子

小学校の見学の場合、学年全体で社会科見学として来館するケースのほか、港区や近隣の区からは授業の一環としてクラス単位で見学に来ていただく場合があります。

これまで当館を訪れた学校の中で、最も人数が多かった学校は150名でした。通常は、多い場合でも3クラス90名程度です。当館はあまり広い施設ではないため、こうした大人数の場合は3～4のグループに分かれて各展示室に分散し、ローテーションを組んで見学してもらっています。

見学の進め方は、当館の映像展示室で物流に関するオリジナルの映像作品を見た後、学芸員が各展示室を案内するというのが一般的なパターンです。

子どもたちが来館すると、まずはじめに「物流って言葉、聞いたことがあるかな？」と質問します。手を挙げる子どもは大抵まばらです。そんな子どもたちに、館を出るときまでには何となくでも「物流」のイメージをつかんでもらい、その重要性を理解してもらうことが、見学に際しての目標です。



陸海空のターミナルを再現した大型ジオラマ(現代の物流展示室)

物流が24時間動いている様子を再現しています。細かな部分まで動くため、小学校の団体見学でも人気の展示です。

館内の見学場所は、2階の映像展示室と1階の物流の歴史展示室、地下1階の現代の物流展示室の3カ所です。

【映像展示室】

ここでは、通常、「物流ってなあに」と「いろいろな輸送」という2つの映像作品を見てもらいます。いずれも、現代の物流について子どもにもわかりやすく解説した10分程度の作品です。

【物流の歴史展示室】

昔の物流がどのように行われていたか、展示資料や模型を使って説明します。展示されている実物大の米俵(担げるように10kgにしています)を担いでみたり、館のワークシートを使って昔の荷役道具などの資料の観察を行ったりします。

【現代の物流展示室】

当館の展示の目玉といえる陸海空の物流ターミナルの巨大なジオラマ模型を見ながら物流の仕組みを説明します。宅配便の展示では、ドライバーの携帯端末機などの持ち物や安全靴、さまざまなラベルや伝票などを手にとって観察できます。ペリカン便のユニフォームを着ての記念撮影もOK。そのほか、ビデオブース、日本各地から世界に物を運ぶ物流ゲームやクイズ、インターネットのコーナー、未来の物流コーナーなど、盛りだくさんの展示を自由に見てもらいます。

・宅配便の勉強会も実施

最近では、先生方の要望に基づいて、日本通運(株)ペリカン・アロー本部より担当者を講師に招き、子どもたちの質問に答える宅配便の勉強会も見学の一環として実施しています。



子どもたちの質問に答える日通のペリカン便担当者

・重要な打ち合わせとアフターケア

見学に際しては、事前にならず先生方と打ち合わせを行います。授業の中で見学をどのように位置付けるか確認したり、館で作成したワークシートを使うかどうか、館の資料を使ってしらす学習(児童の疑問点を自分たちで調べながら解決していく学習)を行うかどうか、フリータイムをとるか等、ご要望を伺います。下見のために事前に来館される先生方も多く、そうした場合には館内をご案内し、より詳しく打ち合わせを行います。

また、見学の後には必ず反省ノートを書き、先生方にはアンケートをお送りして、ご意見を伺っています。

よりよい見学をしていただくために、これからもいろいろな工夫や努力をしていきたいと思っています。

お知らせ

・施設の貸し出しを行っています

物流に関する会議・研修・セミナー等に当館の施設をご利用頂けます。ご希望の方は電話等であらかじめお申し込み下さい。ご利用が可能な施設は、2階映像展示室と図書コーナーです。最大80名までのご利用が可能です。机を使った会議や、150インチスクリーンによるビデオ上映、パソコンによるプレゼンテーション、スライド上映なども可能です。ただし、館の事業等でご利用出来ないこともありますので、早目に日程をご相談下さい。

使用料は、参加者1名につき入館料200円で2時間まで施設をご利用頂けます(ただし入館料に団体割引は適用されません)。2時間を超える場合は追加料金として1時間ごとに1団体につき1000円の使用料を頂きます。

・新人研修にご利用下さい

物流博物館で、新人研修を行う物流関係企業が増えていきます。物流に関する基本的な知識を、展示やビデオ映像を通して楽しみながら理解することができます。

なお、研修の一環として物流に関するレクチャーをご希望の場合、講師の斡旋も行っておりますので、お気軽にご相談下さい。

物流博物館のご案内

所在地 〒108-0074 東京都港区高輪4-7-15

Tel.03-3280-1616 Fax03-3280-4385

<http://www.lmuse.or.jp>

休館日 毎週月曜日

(但し月曜日が祝日・振替休日の場合は、その翌日)

毎月第4火曜日、祝日の翌日(但し土日を除く)

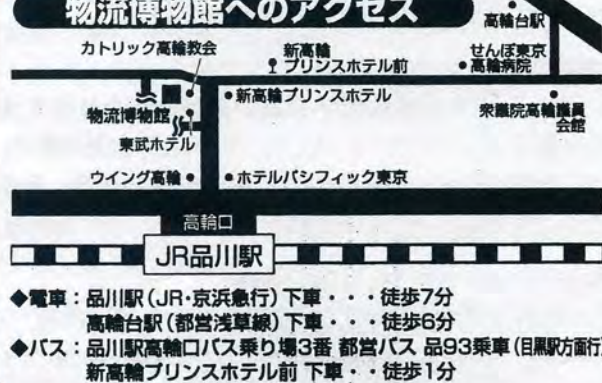
年末年始(12月28日～1月4日)

入館料 小中学生:100円 高校生以上200円

(団体20名以上半額)

※学校関係の団体は入館料が免除になりますのでご相談下さい。

物流博物館へのアクセス



◆電車: 品川駅(JR・京浜急行)下車・・・徒歩7分
高輪台駅(都営浅草線)下車・・・徒歩6分

◆バス: 品川駅高輪口バス乗り場3番 都営バス 品93乗車(目黒駅方面行)
新高輪プリンスホテル前 下車・・・徒歩1分